

キイロコガシラミズムシ *Haliplus eximius* Clark

【選定理由】

県内においては1960年には田原市（旧赤羽根町）から記録されており、平野部から丘陵地に生息したと推測されるが、平野部における多様な水域の減少で生活の場を失ったと考えられ、近年の生息情報がない。

【形態】

体長3.2～3.5mm。体は黄褐色で、上翅に黒紋がないことが特徴である。

【分布の概要】

【県内の分布】

1960年に田原市（旧赤羽根町）から記録されている外、情報がない。

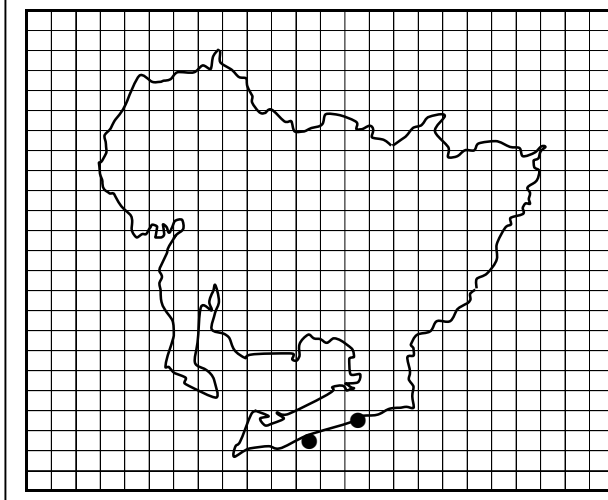
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

水草などの豊富な池沼に生息しているが、生態については何も判っていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

宅地開発、水田の圃場整備等による生息地の消失、改変、農薬散布や生活污水による影響を強く受けたことが考えられる。三重県でも近年の確認例がない。また、水草の豊富な水域に生息する種であることから、アメリカザリガニによる水域環境の悪化も影響があった可能性がある。

【保全上の留意点】

現在ある自然度の高い池をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。そのためにも、脅威となる侵略的外来種の根絶が望まれる。

【特記事項】

古い記録は学名が *H. hiogoensis* Kano et Kamiya となっている。

【関連文献】

- 中根猛彦, 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32 (2): 61-67.
成瀬善一郎, 1960. 渥美半島赤羽産水棲甲虫. 佳香蝶, 12 (44): 152-153.
佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)